



農福連携事業 10年！その先の未来へ



例年になく涼しい日が多かった5月の福島。さわやかな風を感じながら各地の水田も田植えが進み、緑がまぶしい季節を迎え、今年の農作業も本格的にスタートいたしました。

さて、『農福連携事業』も事業スタートから10年目を迎え作業マッチングの受注・問い合わせなど順調に推移しています。

これもひとえに農家の皆様、関係者の皆様をはじめ様々な方々のご理解とご協力に支えられてのこととあらためて感謝しております。

これからも、より良い事業所支援の在り方を模索しながら、「農業」と「福祉」の双方にとって、メリットのある事業となるよう推進に努めてまいります。

10年…その先の未来へと続く事業となるよう、皆様方の‘声’をお聞かせください。

【農福連携スタディツアーに参加】

このほど、いわき市農業政策課主催による農福連携スタディツアーが実施され参加してきました。

スタディツアーは、いわき市内の障害がある方等に農作業を依頼してみたい農業関係者の方と、仕事内容に農作業を考えたい福祉関係者の方を対象に行われ、社会福祉法人育成会 みなみテラスの取り組み事例を、現場（畑・圃場）での作業見学でした。

その後事業所としての取り組み内容について担当者にご説明をしていただきました。

社会福祉法人育成会 みなみテラスでは、障害がある方を年間を通して受け入れ、軽作業や環境改善などに取り組んでいます。

また、連携するNPO法人が運営するレストランからの依頼を受け「とうがらし」「サツマイモ」「玉ねぎ」などの野菜を栽培し、レストランに納品しています。

これらの野菜はレストランで調理されお客様に提供されることにより『福祉』と『社会』がつながるしくみが生まれます。

なお、生産した野菜は納品先（出口）が決まっているので販売先などで悩まず、活動（生産）できているとのことでした。

また、農作業だけでなく自主製品づくりも行っており、革製品や樹脂・パラコードなどを使ったアクセサリーの作成・販売。

自動車部品のバリ取り・袋詰めなどの下請け作業や地元で注目されているコーヒESHOPとのコラボ商品のオリジナルブレンドコーヒーの販売及び原料の豆の選別作業（手作業）なども行っています。

福祉事業所の利用者さんの中には野外の農作業（活動）が難しい方もおり、室内でできる作業の開拓も課題となっております。

今回のツアーに参加して、改めてその思いを強くしたところです。

今後も、当会では様々な取り組みを通じ農業の担い手・労働力確保に資するため、また室内でもできる作業などの掘り起こしも含め関係者の皆様との連携強化に努めてまいります。



（担当：農福連携コーディネーター 渡部 栄昭）

《事務局から》

当会の総会が無事に終了いたしました。ご多用の中、ご参加いただいた皆様には心より感謝申し上げます。本総会では、有意義な議論を重ね、今後の活動の方向性を確認することができました。これもひとえに、皆様のご支援とご協力のおかげです。今後も工賃向上施策実施に向け、力を合わせてまいりたいと思います。引き続きのご支援をお願い申し上げます。改めまして、誠にありがとうございました。